

## 小鹿野町地域公共交通協議会 議事要旨

日 時：令和5年7月27日（木） 15：00～17：00

場所：小鹿野町役場1階 議場

会長 小鹿野町副町長 持田孝史

出席委員 田端伸英、秦野 凌、金子理恵子、関根 肇、高原 昭、黒沢裕幸、木村英一  
相馬 威、瀬谷匡洋、吉田 樹、鈴木千野、西野利彦、岩崎満範、岩田勝政  
栗原勇雄、加藤恭浩、南 徳秀

欠席委員 関口正明、森 功、小池芳紀、浅香 繁、黒沢朋寿、坂井貴夫、立花信明  
村田大樹

事務局 小鹿野町総合政策課副課長 高田行敏  
小鹿野町まちづくり観光課副主幹 多比良 寿

### ■小鹿野町町営バスに係る自家用有償旅客運送の更新登録について

（委員）

○運行管理の点呼はどこで実施しているのか。

（事務局）

○長瀬営業所と両神の運転手休憩所でスマホをつないでアルコールチェック、健康管理を行っている。また、委託会社の運行管理者渡辺氏が週何日か出向いて指導している。

（委員）

○地域公共交通会議において自家用有償の話がポイントになってくると思うが、車両の年式についてもポイントになってくると思う。1人あたり費用も示しながら今後どこの経費を削るかの参考にもなると思う。

（会長）

○経費がどのような利用をされているのかは明らかにした方が良いと思っている。今後提示していきたい。

（事務局）

○町営バスは6台あり、そのうち4台が常時運行しており、最も古いのが平成15年、最も新しいのは令和2年登録である。

### ■小鹿野町地域公共交通計画の策定について

（委員）

○これから計画策定ということだがスケジュールが遅いと思う。よその自治体は既に策定している。

（委員）

○小鹿野町には路線バスと乗合タクシーがあるが、公共交通が便利になるとタクシーの営

業所が無くなってしまう可能性があり、タクシー会社として普通客への影響が問題になる可能性がある。タクシーの一般利用者の声も聞いていただきたい。

バス利用者アンケートについて、問7の場所については再考した方がよい。問8のその他は徒歩とした方が回答者も答えやすい。普段のバス利用とはどういう意味か。自動運転は山間部で実現するのかわからないが導入目的を入れておいた方がよい。

乗合タクシー利用者アンケートでは、問6の選択肢には自宅も必要。問10の表がバスに乗る前・降りた後になっている。キャッシュレスの設問はQRコードよりもペイペイを示した方が高齢者にとってわかりやすい。ラストワンマイルの自動運転について、新しいものは最初のうちは不具合を起こすものだと感じているので新しいものをすぐに入れるのはどうかと思っている。

(委員)

- 大型二種免許の取得者維持が必要だが、50歳以上の人々が8割を占めている状況であり、乗務員確保に苦勞している。持続可能な環境にしていくためには共存が大事。自動運転の話も出てくると思うが、飯能でレベル2の自動運転実証を行ったが大型二種免許保有者がハンドルを操作できる状態で走行しないといけない状況であり、補助者だけで運行できる自動運転はまだ先の印象である。

(委員)

- 次の3年でますます過疎化が進む。国内でも小鹿野町の様な所もあると思うので、そこも事例にどんなバスの運営をしているか、確認しながら進めてもらいたい。

(委員)

- 次の3年は大きな変化は無いと思うが、先々の事を考えると西武観光バス、町営バスとの共存を考えながら取り組んでいく必要があると思う。免許返納者も増え、ハッピーパートナーの様なものを使うようになると思うが、今はハッピーパートナーは評価されているが地域間をつなぐ公共交通は便数を減らすことになるかもしれないが、アンケートを踏まえて検討してもらいたい。

(委員)

- 観光を推進する立場から、観光に車で来訪している人に何故公共交通を利用しないのかを聞いても良いと思う。

(委員)

- 自分自身、公共交通はなかなか利用する機会はないが、バスの小型化はできないのかなと考えている。乗車されていない状況を見る事が多く、大きいと狭い道路の走行も難しいし、小型化して細街路をつなぐことができれば便利になると思う。

(委員)

- 本町の人口は毎年300人程度減少している状況。1万人を下回ってくるとバスの利用者も減ってくるため、オンデマンドに向かっていくのが現実的だと思う。

(委員)

○計画を作っていく立場でもあるので、皆さんから頂いた意見を計画に反映していきたい。  
(委員)

○小鹿野線は主要な路線だったが、維持できるように考えないといけない。小鹿野高校の生徒と撮影会を実施したが、その様子をHPに載せたりした。こういった公共交通のPRを積極的にやっていくと良いと思う。  
(委員)

○令和7年に小学校が1つに統合される。そうすると、小学校にスクールバスが集まってくることになるので、一般の方に利用してもらう可能性は出てくる。但し、朝は決まった時間に運行されるが、帰りの時間はイベント等で日によって異なるという課題はあるが、2年先の話でもあるので検討しながら取り組めればと思っている。  
(委員)

○高校生からの要望で便数を増やしてほしい、試験前や夏休み用のダイヤを組んで欲しいという意見があった。小鹿野線を使っている生徒の意見なので紹介させていただいた。  
(委員)

○公共交通の維持は利用をしないと駄目。車に慣れた人に公共交通を利用してもらう必要がある。観光、産業部門とも連携して取り組んでいく必要がある。  
(委員)

○バス業界は運転手不足で大変な状況。特に山間部については自家用有償運送が有効だが、委託先も運転手不足になる可能性があるので注意が必要である。補助についても議論が必要だと考えている。  
(委員)

○地元のニーズをアンケートで的確に把握して頂き、的確に施策を検討してもらいたい。  
(委員)

○観光客を巻き込んだ施策を検討していきたいと思う。  
(委員)

○小鹿野町地域公共交通基本計画策定後の取り組みについて、なぜ今日の段階で出てくるのか。現在、小鹿野町の課題が共有されていない中で、策定後の取り組みが出てくるのが疑問。小鹿野線は国からの補助金を得るためにはこの計画に位置づけないといけないが、そこに目が行き過ぎて中身の無い計画になってはいけない。

○路線バスについて収支は非常に苦しいという1行で済まされている。計画策定期間として今年1年で取り組むカレンダーがあったと思うが、町営バス、乗合タクシーの記載はあるが、西武観光バス小鹿野線の記載がない。西武秩父駅から小鹿野町へのバスが無くなったら小鹿野町は鉄道が無くなるのと同じこと。この路線が無いと観光客に来てもらえないし、学生も通えない。最大の生命線が小鹿野線だと認識している。町としてどうしたいのか、西武観光バスとしてどうしたいのか、この辺りはしっかり議論が必要である。

○バス車両の小型化について、需要を見て検討する必要がある。OD調査を実施するようだ

が、本来は、観光客の需要もあるはずなので、ICカードのデータから月別等の需要について確認する必要がある。

- スクールバスについては自家用有償と同じで委託できる業者が運転手を確保できるのか確認しておいた方が良い。遠距離通学の場合、普通交付税が入ってくるので財政的な動きについて把握しておくことが必要。
- 小鹿野町同様の人口減少地域において公共交通がうまくいっている事例を小鹿野町にそのまま持ってきても成功しない。人口減少するなかでも公共交通は無くしたくないので、どういう人に誰に使ってもらいたいのか、どうなれば便利になるのか、この辺りをしっかり描いていきたい。
- ハッピーパートナーがあることによって、公共交通サービス水準が低くても生活ができるのかもしれない。ハッピーパートナーを使っている人がどういう行動をしているのかを押さえておいた方が良いでしょう。
- これらの課題について皆さんで議論していただくだけでも、色々と見えてくるのではないかなと思う。
- アンケートについて、限られた利用者しかいない中で郵送回収だと欲しいサンプルが集まらないと思うので再度検討してもらいたい。自動運転の質問は必要ない。
- 町営バスと乗合タクシーの見直しについては、町の考えでハンドリングは可能だと思うが、経路を変更するなどの検討は3か月では無理。どんな人にどういう目的でどんなシーンで使って欲しいのかということはこの3か月間で議論しつつ、町営バスと乗合タクシーの大きな方針をつくるということで3か月を使っていたきたい。

(委員)

- アンケートは役場に来られた方に聞くのはどうだろうか。

(委員)

- 町役場の方も添乗して、西武秩父駅から小鹿野へ来る間に聞き取りをしてはどうか。

(委員)

- 西武観光バスに協力してもらえれば回収箱を置いても良い。

(会長)

- アンケートは町職員も含めて月5日はサンプルを確保したい。また、アンケート設問の山間部での自動運転は現実的ではないと思っている。

(委員)

- 乗合タクシーのアンケートは登録者なので属性の情報は不要で、アンケートに登録番号を記載してもらえば良いので再考して欲しい。

(会長)

- バスを利用している生徒は把握しているので、バス利用者は、そこをターゲットにしても良いのではないかな。